

2026 年 8 月 24 日

JFE建材株式会社

鋼製ブロック堰堤（応急土石流ガード）で早期復旧 平生町土砂災害、発災 48 日で応急堰堤完成

JFE 建材（東京都港区、橋本直政社長）は、このほど山口県平生町で発生した土砂災害に対する応急復旧工事において、鋼製ブロック堰堤（応急土石流ガード）の供給および施工支援を行い、工事が完了した。発災から 48 日で、高さ 3m、延長 40m の応急堰堤が構築された。

6 月 26 日に発生した山口県平生町小郡地区の土砂災害に対し、山口県が進めていた応急復旧工事がこのほど完了した。被災現場では二次災害防止に向けた対応が進められ、その一環として鋼製ブロック堰堤（応急土石流ガード）が設置された。

今回採用された鋼製ブロック堰堤（応急土石流ガード）は、土石流や流木による二次災害の防止を目的に、短期間で設置できる応急対策工法である。岩手県大船渡市の林野火災後の応急対策工事でも採用され、その後の豪雨による土砂流出を捕捉した実績を持つ。こうした施工実績や施工性の高さも評価され、今回の復旧工事に活用された。

現場では災害発生後、関係機関による復旧検討や施工準備が進められた。8 月上旬から施工が開始される中、山口県は 8 月 6 日に応急工事の実施状況を報道機関へ公開。工事の様子はテレビや地元紙でも紹介され、復旧作業の進捗が報じられた。

施工は計画どおり進められ、8 月 12 日に完了。完成した鋼製ブロック堰堤（応急土石流ガード）は、高さ約 3 メートル、延長約 40 メートルの堰堤として整備され、上流部から流下する土砂の捕捉を目的とした構造となっている。工事完了後には山口県柳井土木建築事務所の担当者らが現地を視察し、完成状況を確認した。

近年は豪雨災害の激甚化が進む中、今回の平生町での取り組みは、発災後の迅速な応急対応と早期復旧を図る事例の一つとして注目される。

